



【夏休み子ども防災訓練の様子】①入間東部地区消防本部の隊員から消火器の操作説明を受け、いざ放水。楽しみながら消防を学ぶ。②布を使って骨折のときの応急処置を実践。いざというときにこうした経験が役に立つ。③煙体験。火災発生時に落ち着いた対応ができるかが重要。④バケツリレーの様子。地域の結束力が試される。



AR  
YouTube



発電機の仕組みの説明



消火器の使用法の説明

地域が共に助けあう

# 地域力 共助力

災害発生時、すぐに対応できるのは自分、家族、そして近隣住民。もしものときに備えて、住民自身が災害対策を行っています。



藤久保第3区自主防災会会長

西内 一夫さん (59)

藤久保第3区区長、10月に実施される地域連携避難訓練の実行委員長も務める。藤久保第3区自主防災会はその功績が認められ、9月2日に防災功労者防災担当大臣表彰を授与される。

「防災の原点は  
地域コミュニティ」

## 自主防災組織

地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために結成された組織を自主防災組織と呼び、三芳町内には12地区で結成されています。防災を身近なものとして、誰でも地域参加ができるように、創意工夫を凝らしている藤久保第3区自主防災会。

災害時の行動マニュアルを作成。全戸配布し、共助活動への住民意識向上を図るなどした結果、今年、埼玉県では一団体のみとなる防災功労者防災担当大臣表彰を受賞した会長の西内一

夫さんにお話を伺いました。

## 地域住民を守りたい

「区長になったとき、地域住民をどうすれば災害から守れるかを考え、平成22年に有志を募って藤久保第3区に自主防災組織を結成しました」と西内さん。入間東部地区消防組合と協力して「夏休み子ども防災訓練」を実施し、地域の子どもたちの防災意識向上を図っています。また、毎年12月には地域で避難訓練も行っています。

## 地域の力が必要

「高齢化が進み一人では避難

できない人がいます。そのときに必要なのが地域の力です」と言い、「気軽に参加してもらえよう、訓練は楽しく学べる工夫を凝らしています。多くの人が参加してもらい、そこで会話が生まれ、地域コミュニティが活性化する。それが、非常時の声かけなどにつながっていくと思っています」と続けました。

## ありがとうの言葉

地域コミュニティをすぐに強化していくことは難しいですが、日ごろからのあいさつや、会話などで交流を深めることが

大切です。結果、地域をよく知り、非常時には、地域の助け合い「共助」につながっていくのかもしれない。最後に自主防災会を通じて印象深かった共助の出来事について伺いました。「東日本大震災のとき、自主防災会で、藤久保第3区全域をまわり、被害状況を確認しました。その中で一人暮らしのお年寄りがとても不安だったけれど、皆さんのおかげで安心しました。ありがとう」と声をかけてくれました。非常時こそ、地域のつながり、共助が大切だと痛感しました」。

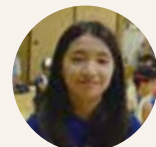
## Interview 夏休み子ども防災訓練参加者



### けむりの特性を理解

寺島 大貴さん

けむり体験をして、けむりは上に昇っていくと感じたので、逃げるときはしゃがんだ方がいいんだなと思いました。



### 地震体験が勉強に

五島 柚季さん

車で地震を体験して、大地震の時はテーブルの下にいただけでなく、しっかり脚を持っていないとダメだと勉強になりました。

【そのほかの声】みんなで協力したバケツリレーが楽しかった(井守萌恵さん) / けむりを体験したことを学校で友達に話したい(上村澤生くん) / 消火器の使い方がわかって良かった(松岡愛香さん)



昨年の様子。区ごとに分かれ、プラカードを掲げて避難所に誘導。今年は10月17日に実施予定。

## 東日本大震災を教訓 地域連携避難訓練

東日本大震災発生以来、防災のあり方が大きく見直され、実際の災害時の動きをより意識した訓練をするようになりました。昨年10月18日、町内8つの小・中学校全ての指定避難所を開設し、役場庁舎内の災害対策本部との情報連絡体制を確認する「三芳町地域連携避難訓練」を実施。行政区・住民722人をはじめ約千人が参加。地震が発生し、居住家屋が倒壊するなどしたとき、指定避難所に避難することになります。一度でも流れを知っておくと、もしものとき、その体験が活かされます。

## 5つの対策を確認

- 1 非常持ち出し品を準備し、すぐ持ち出せるようにしておく。
- 2 家の中の避難路を確保する。家具の転倒、落下防止対策をする。
- 3 停電した電気が復旧した後に起こる「通電火災」を防ぐ対策をする。
- 4 町の指定避難所、行政区の一時避難地を確認する。
- 5 家族で合流できるように、集合場所や連絡方法を普段から確認しておく。



いざというときのため、非常用持ち出し品を準備し、家具や家屋が倒れても取り出しやすい場所（家の外の倉庫・車のトランク・家の出入り口付近など）においておきましょう。